



平成 23 年 7 月 15 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～手足口病が流行しています～ **NEW**
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（6月月報） **NEW**
- 病原体（ウイルス）検出情報（6月） **NEW**
- 結核患者情報（4、5月） **NEW**



(調査週) 平成 23 年 第 27 週 7 月 4 日 (月) ~ 7 月 10 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	手足口病	5.49	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.00	→~↓	→~↓	→~↓	↓
3	ヘルパンギーナ	1.89	↑↑	↑↑	↑↑	↑
4	水 痘	1.26	→~↓	↓	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.80	→	→	→	↑
5	伝染性紅斑	0.80	→~↓	→	→~↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当たりの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 218 例で、前週報告の 179 例から増加。上位 5 疾患は、①手足口病、②ヘルパンギーナ、③感染性胃腸炎、④伝染性紅斑、⑤水痘の順。ヘルパンギーナの報告数（42 例）は、倍増。手足口病の報告数（81 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（36 例）も、増加。伝染性紅斑の報告数（21 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（13 例）は、半減。郡山 HC 管内基幹定点からの無菌性髄膜炎の報告が、1 例（1~4 歳児）あった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎が各々 1 例ずつ計 2 例報告された。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は 173 例から 217 例と増加した。上位の 5 疾患(26 週→27 週)は、①手足口病（39 例→91 例）、②感染性胃腸炎（35 例→31 例）、③水痘（18 例→29 例）、④ヘルパンギーナ（9 例→18 例）、⑤咽頭結膜熱（16 例→16 例）の順であった。手足口病は 26 週より更に増加し、26 週に続き 1 位で大流行している。インフルエンザの報告はなかった。眼科定点及び基幹定点からの報告もなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第26週→第27週）は50例→41例と減少。報告のあった疾患は①手足口病（11例→20例）、②ヘルパンギーナ（6例→6例）、③咽頭結膜熱（6例→4例）、④A群溶連菌咽頭炎（9例→3例）、④感染性胃腸炎（9例→3例）、⑥水痘（6例→2例）、⑥突発性発疹（1例→2例）、⑧伝染性紅斑（1例→1例）。（柳生 記）

【気になる話題 ～手足口病が流行しています～】

手足口病の報告数が全国的に急増しています（図1）。特に西日本での流行が顕著で（図2）、熊本県、佐賀県、福岡県および愛媛県では定点あたり報告数が30を超える大流行となっています。奈良県においても、第27週には6保健所中4保健所管内の定点あたり報告数が警報（*）の基準値である5.00以上となりました（表）。

手足口病は、エンテロウイルスの仲間を主な原因としています。感染予防には、手洗いやうがい、励行など、一般的な注意が有効です。

*警報：大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示し、国立感染症研究所感染症情報センターで疾患ごとに基準値を定めている。手足口病の警報基準値は5.00。

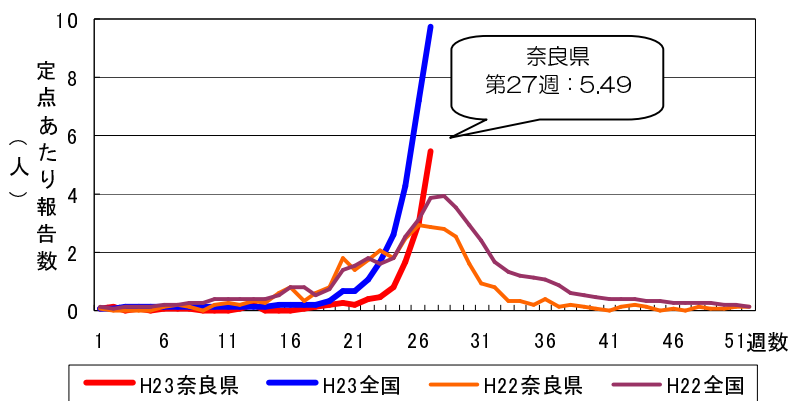


図1. 手足口病の定点あたり報告数（奈良県・全国）



■：警報レベルの保健所がある都道府県

図2. 手足口病の警報レベルマップ（感染症発生動向調査システム（NESD）より引用）

表. 第27週の定点あたり報告数（保健所・奈良県・全国）：単位（人）

保健所	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	奈良県	全国
第27週 (前週)	3.14 (3.00)	5.90 (3.30)	5.00 (1.29)	8.00 (4.29)	5.50 (3.00)	4.50 (2.50)	5.49 (2.97)	9.72 (7.00)

赤字は警報基準値（5.00）以上

[参考]

国立感染症研究所感染症情報センター疾患別情報「手足口病」

<http://idsc.nih.go.jp/disease/hfmd/index.html>

保健環境研究センター5月だより～定点把握対象疾患の話：手足口病について～

<http://www.ihe.pref.nara.jp/kansen/dayori2305.pdf>

（感染症情報センター 記）

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（6月月報）】

平成 23 年 6 月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD 患者数（人）

疾患名/報告月	6月		5月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	7	0.78	6	0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	2	0.22	1	0.11
尖圭コンジローマ	5	0.56	0	0
淋菌感染症	3	0.33	3	0.33

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	6月		5月	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	33	5.50	23	3.83
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	1.67	11	1.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 6 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、6 月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 23 年 6 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	その他	臨床診断名
ポリオ	3			1		不明熱(1)
インフルエンザ	AH3	1				インフルエンザ(1)
インフルエンザ	B			1		インフルエンザ(1)
ロタ	A				1	感染性胃腸炎(1)
ノロ	GII			3		感染性胃腸炎(3)
アデノ	2			1		上気道炎(1)

（保健環境研究センター 記）

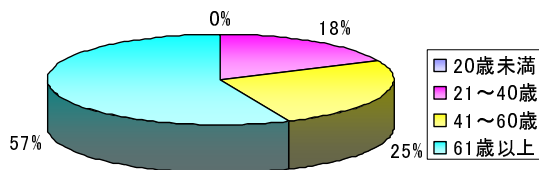
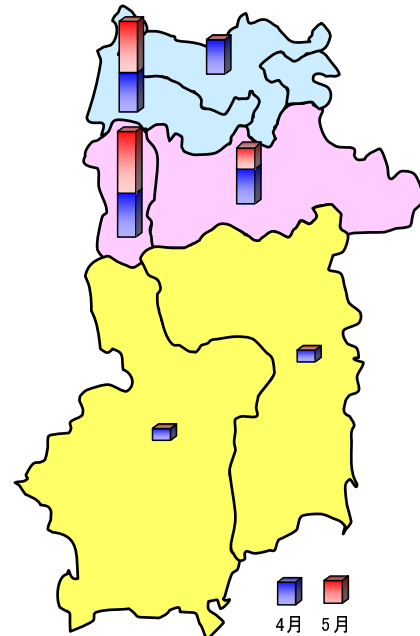
奈良県結核患者情報

平成23年5月、厚生労働省は厚生科学審議会感染症分科会結核部会の議論を踏まえ、結核に関する特定感染症予防指針の一部を改正し、結核の発生状況把握にあたり病原体サーベイランスの構築に努めることを明記しました。それを受け、奈良県感染症情報センターでは結核予防および啓発の一助とすべく、奈良県結核患者情報をお知らせします。

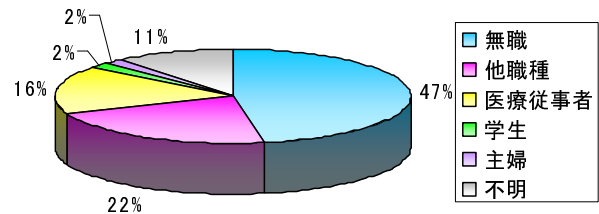
(平成23年4月～)

結核届出数

市町村		4月	5月	総計
北和	奈良市	6		6
	大和郡山市	2	3	5
	天理市	2	1	3
	生駒市	3		3
	平群町		1	1
	三郷町		2	2
	斑鳩町		2	2
中和	大和高田市	1	3	4
	御所市	2		2
	香芝市		3	3
	上牧町	1		1
	王寺町	2	2	4
	広陵町	1	2	3
	河合町	1	1	2
	橿原市	2	1	3
	桜井市	4		4
	田原本町		2	2
	高取町		1	1
南和	吉野町	1		1
	大淀町	1		1
	五條市	2		2
合計		31	24	55



診断時の年齢割



職業別

- 1) 結核届出患者数は、県北西部にやや多い傾向がみられます。
- 2) 年齢分布では、60歳以下の若・中年層が43%に達しています。
- 3) 職業別では、医療従事者（医師・看護師・薬剤師など）の占める割合が比較的高い（16%：9人）傾向にあります。

(感染症情報センター 記)